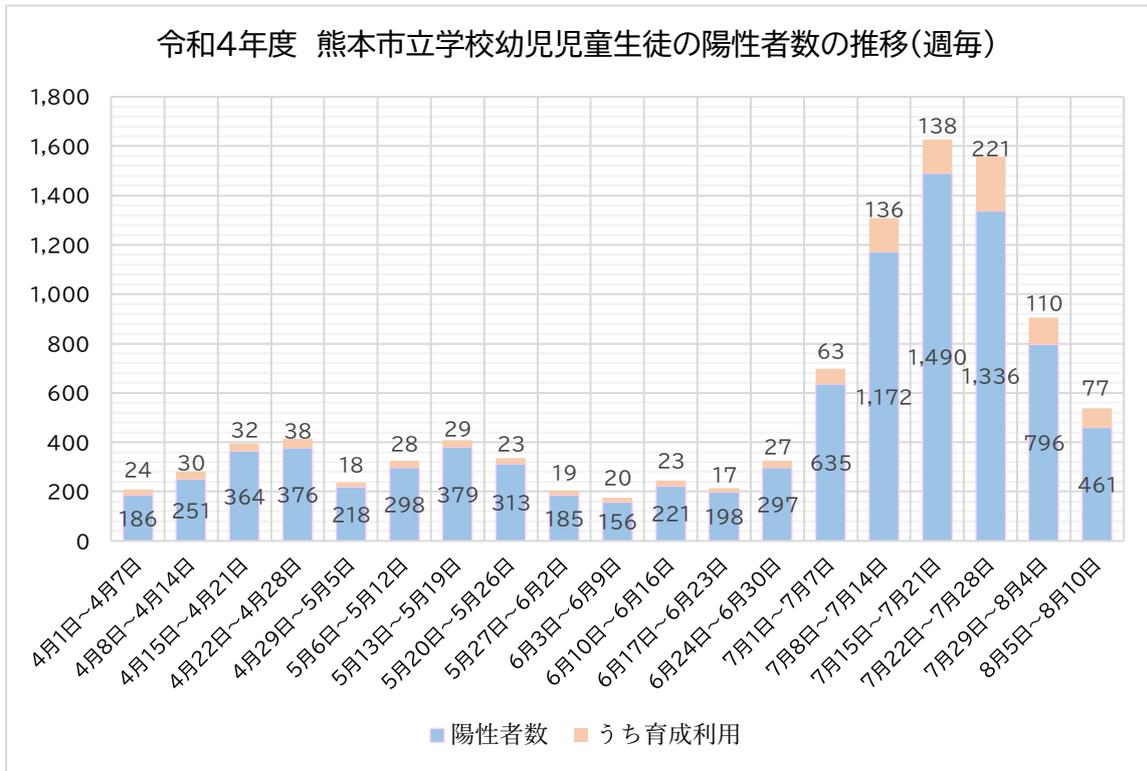


新型コロナウイルス感染症に対する対応について

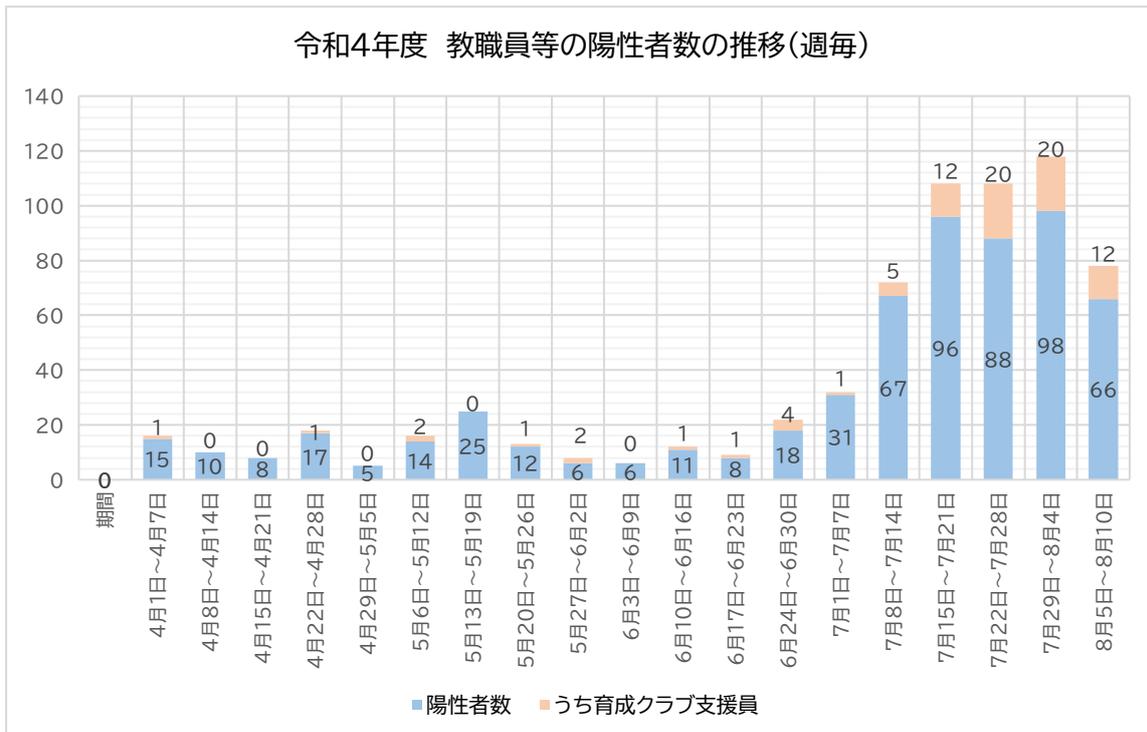
令和4年8月25日 教育委員会事務局

1 新型コロナウイルス感染状況について



○4月から6月は、週平均 264.8 人。ゴールデンウィークの翌週に 379 人と増加が見られた。

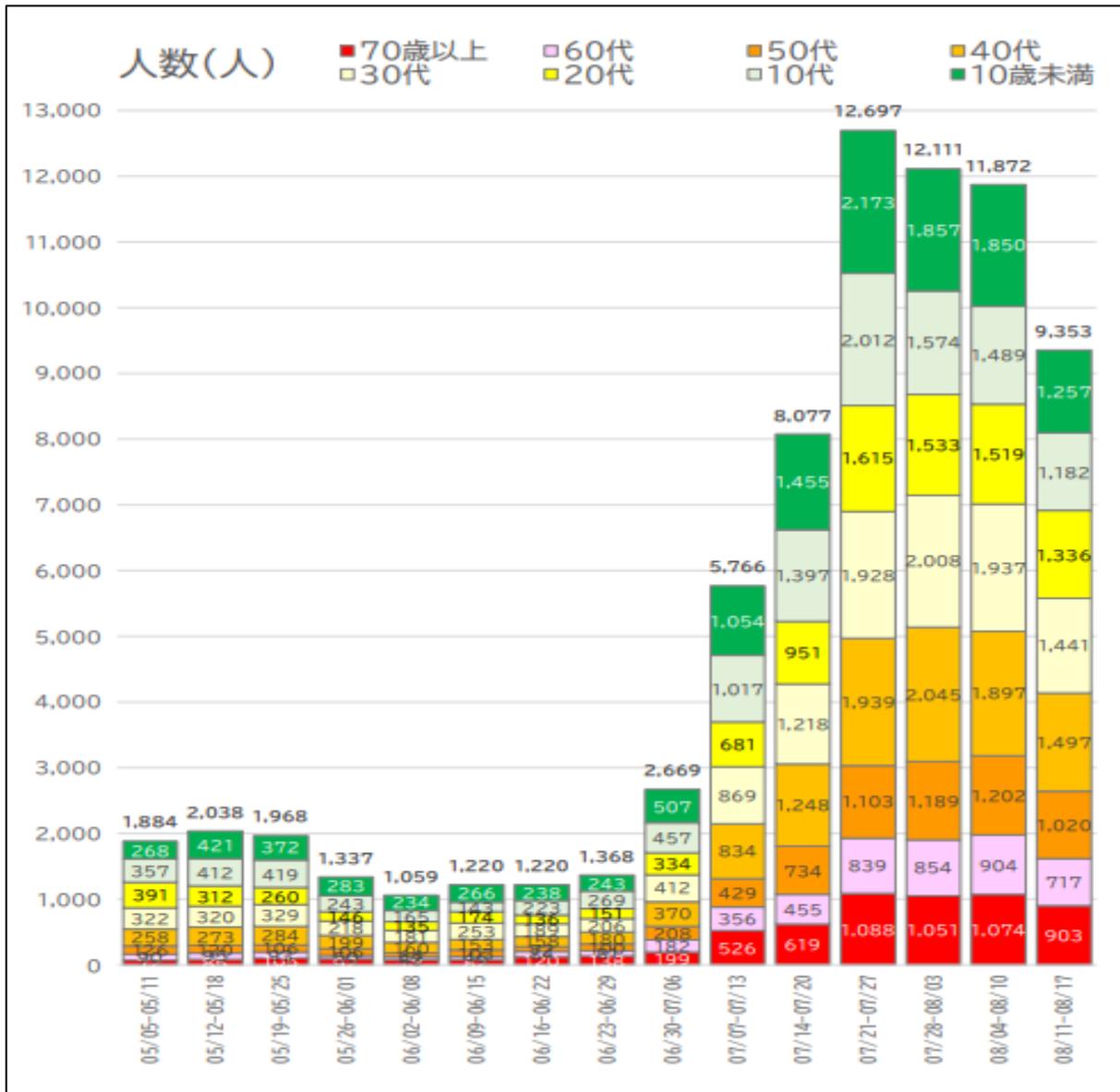
○7月から著しい増加傾向に転じ、終業式の週(7月15日～7月21日)は最多の 1,490 人となった。



○4月から6月は、週平均 11.9 人。特にゴールデンウィークの翌週に 25 人と増加が見られた。

○7月から著しい増加傾向に転じ、7月29日～8月4日の週は最多の 98 人となった。

<参考>熊本市の年代別新規感染者数推移

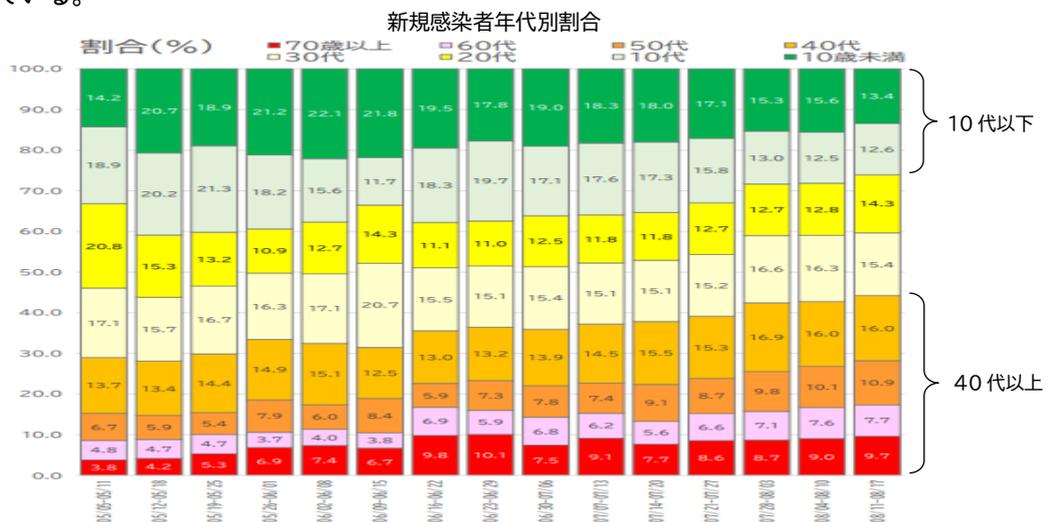


(8/19 第147回熊本市新型コロナウイルス感染症対策本部会議資料より)

○市全体として7月から感染者数が急増

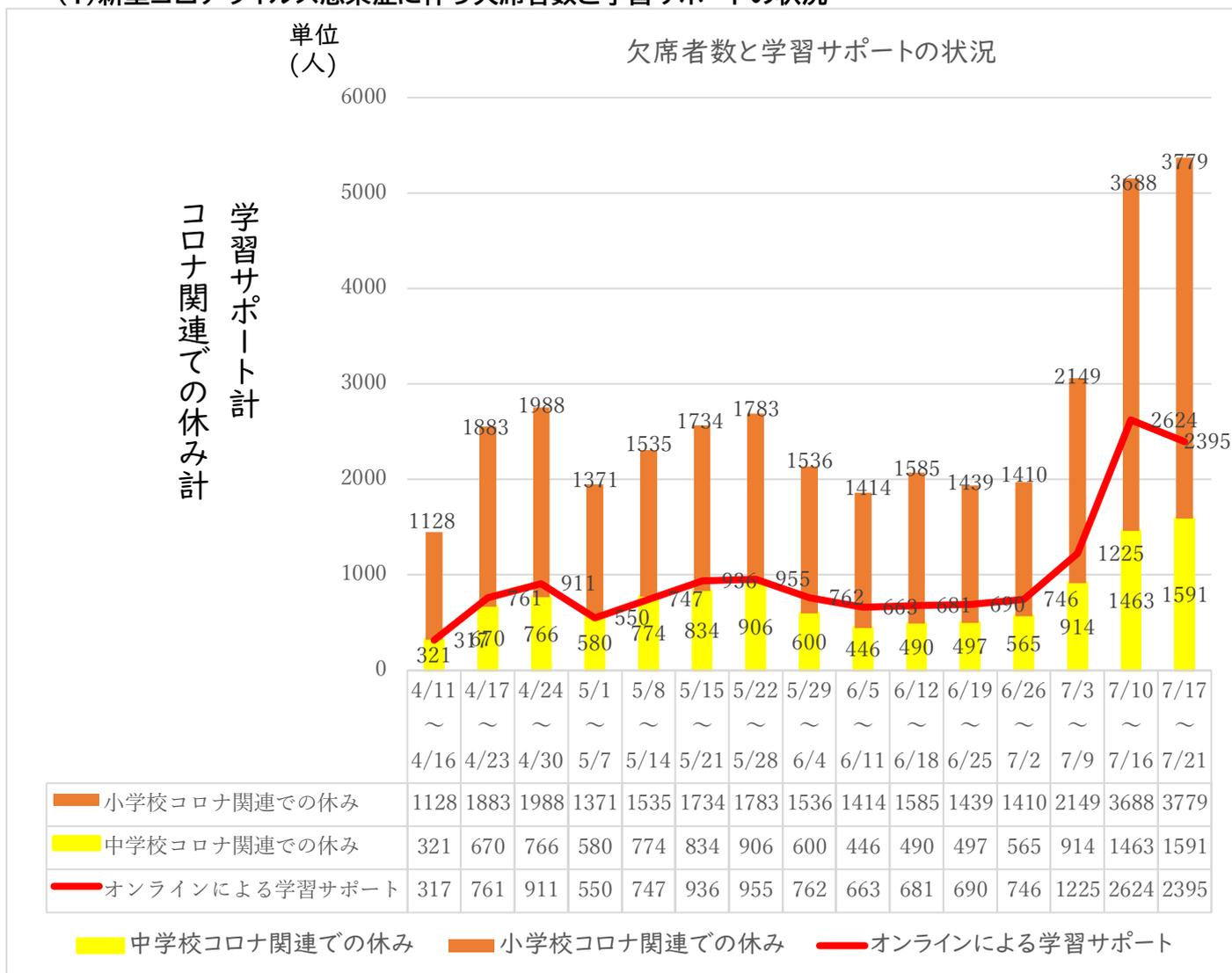
○新規感染者数は減少が見られているが、お盆休みによる検査数の減少が影響していると考えられる。

○年代別の割合を見ると、7月以降40代以上の占める割合が増加傾向にあり、相対的に10代以下の割合は減少している。



2 学校現場の対応状況の変化について

(1)新型コロナウイルス感染症に伴う欠席者数と学習サポートの状況



※「コロナ関連での休み」とは、濃厚接触等による出席停止や感染不安等により登校しなかった児童生徒。

○新型コロナウイルス感染症に伴う出席停止や感染不安等による欠席は、7月に入り急激に増加した。
(全校児童生徒に占める濃厚接触等による出席停止や感染不安等による欠席者の割合は、2.4%から8.9%に増加した。)

○濃厚接触等による出席停止や感染不安等により登校しなかった児童生徒に対しては、各学校で授業のライブ配信やハイブリット授業、ロイロノートによる個別支援(学習課題や質問等)を行う等、家庭での学習をサポートした。

(2) 学校運営における感染防止対策の変化(令和2・3年度と令和4年度との違い)

(※小中学校の校長会会長及び副会長、各教科研究会の会長の校長先生、教育委員会事務局学校教育部教育センターの各学校担当指導主事から8月2日までにいただいた回答をもとに作成。)

令和2・3年度	令和4年度
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な感染防止対策は、教師主導の部分が強かった ・学校行事や部活動の大会などは感染状況により中止や延期、日ごろの部活動も感染状況に応じて制限 ・給食は全員前を向いたまま、黙食。休み時間は感染防止対策を図りながら過ごす ・登下校中のマスクの着用は基本的に不要とし、感染状況に応じて着用 	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣化、自覚化してきて、細かく指導することが減った ・「新型コロナウイルス感染症再拡大等の熊本市立小中学校における対応パッケージ」に基づいて、対応できている ・学校行事や部活動は感染防止対策を図り原則実施、部活動の大会も感染防止対策を行って実施 ・給食も休み時間の過ごし方も、令和2・3年度と変わらない ・令和2・3年度と変わらず登下校中はマスクを不要としており、着用しない児童生徒が増えているが、未だマスク着用している姿も見られる

【課題】

- ▲オンラインでの授業配信の要望が多くなり、教職員の負担がととも増加している。
- ▲様々な理由(感染の心配・恥ずかしい)でマスクを外さない児童生徒が増えた。
- ▲地域との連携の機会が減り、子どもが地域の人々や地域連携活動に触れ、貢献する機会が減った。
- ▲PTA活動が減り、PTA活動内容の理解が進まず、任意加入の加入率が下がる傾向にある。
- ▲最近の陽性者・濃厚接触者増によって、教職員が足りなくなり、対応に苦慮する学校があった。

(3) 各教科指導における感染防止対策の変化(令和2・3年度と令和4年度との違い)

(※小中学校の各教科研究会の会長の校長先生から8月2日までにいただいた回答をもとに作成。)

教科等	令和2・3年度	令和4年度
国語 社会 算数・数学 理科 外国語 図工・美術 道德	<ul style="list-style-type: none"> ・机を前向きに配置し、グループ活動はなし ・タブレットでグループや全体での意見交換 ・ゲストティーチャーとの交流は減少 ・対話学習は極力せず、少人数、短時間で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・机をコの字型に配置し、小グループで意見交換 ・時間を限定し、タブレットを見せ合うなど自由に意見交換 ・ゲストティーチャーとオンラインで交流 ・対話学習は、適切な感染防止対策を行った上で実施
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・向かい合う合唱練習は行わず、リコーダーは指を動かすだけの指導 ・タブレットを使用し、模範演奏の動画をまねて演奏した動画を提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱・吹奏楽はマスク着用で実施 ・感染症が落ち着いた時期は工夫しながらリコーダーの授業も実施、拡大状況の中では特に間隔を広げるなど工夫して継続実施
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・調理は実験程度を実施 ・試食はできない 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で分散して1人1調理 ・黙食で試食
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外問わず、運動負荷が軽い運動ではマスク着用して運動することが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外問わず、基本的に運動時はマスクを外すことへの理解が進んでいる
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で集まることが難しく、学年単位の集まりも広い場所を確保して実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を最大限に行いながら、学習発表会等の文化的行事を実施する方向で検討

3 児童育成クラブにおける新型コロナウイルス感染症の状況

(1)新型コロナウイルス感染症に伴う児童育成クラブ閉設状況について (公営 80、民営 15 クラブ)

令和4年度は児童の新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、4月に2クラブ、7月に6クラブ、8月に9クラブの計17クラブ(8月22日時点)を閉設。

(2)児童育成クラブの感染症拡大防止対策について

- 消毒やマスク着用、換気の徹底等の従来の感染対策。
 - ※熱中症対策として外遊び中はマスクを外して対応。
- おやつ提供は、なるべく素手を使わず、短時間で食べることができる個包装のものを提供。
- 必要に応じて保護者の理解のもと、おやつ提供を中止。
- 支援員に抗原キットを配布し、集中的検査の実施。
- 夏休み前に保護者に対し、児童や同居家族に風邪の症状がある場合は利用を控えてもらうよう依頼。

(3)児童育成クラブの新型コロナウイルス感染症に対する新しい対応について

令和2・3年度	令和4年度
<ul style="list-style-type: none">・濃厚接触者を特定するためのリストを作成し、保健所に提出。保健所にて濃厚接触者を特定。・クラブ内で陽性者が複数名出た場合、保健所と学校に相談し、濃厚接触者が特定されるまで閉設。	<ul style="list-style-type: none">・クラブ内での濃厚接触者の特定や利用制限を行わず対応。・閉設については学校と相談し、青少年教育課で判断。・クラブ内での児童の感染拡大や支援員の感染状況を総合的に判断し、閉設。